

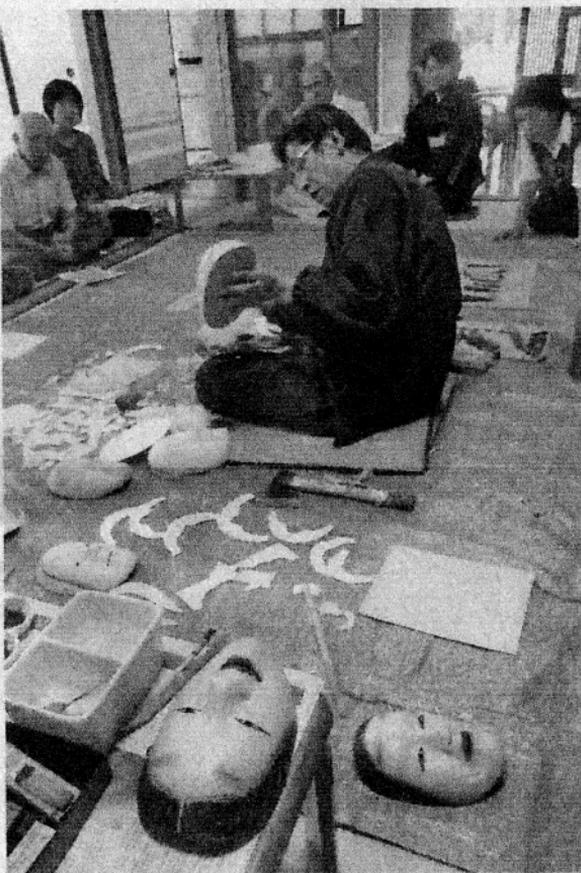
能面制作の奥深さ実感

春の「島熊山桜能」で知られる豊中市の豊中不動尊で6日、能面制作実演講座が開かれ、参加者たちは、能面ができあがっていく工程に興味深そうに見入っていた。同不動尊の「お能ってなあ〜に? おもしろ講座」の秋講座の第1弾。

豊中市の能面師、鳥畑英之さん(66)が、ヒノキから型紙で面の材料を切り出す「木取り」から、大まかな顔を掘り出す「荒取り」、「仕上げ」などを実演。老若、男女による顔の形の違いなどを説明した。

さらに、彫り上がった面の下塗りや彩色工程を実演、色出しの難しさを解説した。趣味で能面彫り

豊中不動尊で実演講座



能面制作の工程などが
実演された講座
豊中市

をしている参加者もおり、熱心に質問する人も。

「お能ってなあ〜に? 実行委員会」の能楽観世流シテ方、山本博

通さんは「能面は奥が深く、ひとりの能面師が納得できる面を彫れるのは一生に1面くらいといいますが」と解説していた。